

実践報告

栄養士養成校における学生の「社会福祉」に関する意識の調査

— 「社会福祉概論」授業受講前・後のアンケート調査より —

A survey of students' awareness of "Social Welfare" at a dietitian training school: From questionnaire survey before and after class of "Introduction to Social Welfare"

古橋真紀子 国際学院埼玉短期大学幼児教育学科

栄養士・管理栄養士を目指す学生の「社会福祉」に対するイメージや意識について把握する目的で、令和4年度2年生後期に「社会福祉概論」を履修した学生に対して、授業当初と全授業終了後にアンケートを実施した。本稿は、その結果について報告することで、今後の本校における「社会福祉（社会生活と健康）」の教育内容検討への一助とする。

キーワード: 栄養士課程、栄養士、社会福祉

1. はじめに

21世紀の管理栄養士等のあり方検討会報告（1998）によれば、その検討の背景として、「今日の社会状況や健康問題の変化を反映して、栄養指導に求められる知識や技能は高度化・専門家してきている」こと、「疾病者への栄養管理や介護領域で活躍しようとする栄養士には、人を対象とするサービスを実施するための知識・技能及びすぐれた見識と豊かな人間性や、福祉関係の知識や経験が不可欠となっている」ことが特筆されている。

同報告では、「(1998年段階の)日本における栄養士・管理栄養士は、主に給食管理に携わっており人を対象とするサービスを実施している人材は少ないが、欧米では人を対象とする栄養専門職種として位置づけられている」ことを根拠に、「日本においても今後、栄養士業務の拡大」が予想され、「それに必要な資質の向上に向けての見直しの必要性」が報告されている。

さらに、養成のあり方について、「管理栄養士・栄養士が保健・医療・福祉領域において生活習慣病への対応等、時代の要請に応じて業務を円滑に遂行するためには、従来にも増して高度な専門知識や技能の習得が不可欠である」として、「疾病者（患者）の栄養管理もできる管理栄養士を育成するために(1)チーム医療へ参画するために必要な教育科目、(2)カウンセリングや福祉・介護分野の教育科目、(3)豊かな人間性を養う教育等を充実する」等の「教育科目の見直し」の必要性について言及している。また、この再編成に当たって、「ゆとりある教育を実現するため、既存の教育科目のうち内容が重複している部分等を整理するとともに、養成施設の独自性と専門性も出せるよう必修の専門科目を極力限定することが必要」と指摘している。

この検討会報告を受けて、2000年に栄養士法が改正され、それまでは、栄養士については、15教科、50単位以上が必修の専門教育科目とされていたものが、科目指定制が廃止され、「社会生

活と健康」「人体の構造と機能」「食品と衛生」「栄養と健康」「栄養の指導」「給食の運営」という分野ごとの指定へと変更された。これにより、養成校ごとに特色あるカリキュラムの編成が可能となった。管理栄養士養成にかかる専門教育の内容についても、「専門基礎分野」については具体的な科目名ではなく、「社会・環境と健康」「人体の構造と機能疾病の成り立ち」「食べ物と健康」という分野で指定されている。これにより、養成校は示された教育目標の達成に向けた科目や単位数を自由に設定することが可能になった。つまり、栄養士の専門性を支える資質・能力として「生活や健康などについての総合的な学び」が必要であり、その育成において養成校ごとの多様なカリキュラムが認められるようになったといえるのである。厚生労働省健康局長通知「栄養士法施行規則の一部と改正する政令等の施行について」（2001）によれば、「社会生活と健康」の教育目標は、「社会や環境と健康との関係を理解するとともに、保健・医療・福祉・介護システムの概要について修得する」と示されている。

このような背景の中で、本校においては、令和2年度までは専攻科健康栄養専攻の専門関連科目として「社会福祉特論」を開講していた。その後、令和3年度健康栄養学科食物栄養専攻入学生から、2年次後期に「社会生活と健康」の4単位のうちの栄養士必修として「社会福祉概論」を開講している。したがって本校における「社会福祉概論」の授業は、「社会や環境と健康との関係を理解する」とことと、「保健、医療、福祉、介護システムの概要について修得する」ことをねらった科目としての位置づけであるといえる。

授業開始にあたり、栄養士・管理栄養士を目指す学生の「社会福祉」に対するイメージや意識について把握する目的で、社会福祉概論の授業受講前にアンケートを実施したところ、「社会福祉」について興味関心が低く、社会福祉という言葉から具体的なイメージをもつことができない学生が多いことが明らかになった。しかし、授業を受講する中で、学生の発言や提出物の記載内容に変化が出てきたと感じた。そこで、その体感を確認する目的で、授業最終回にも同様のアンケートを実施し、講義受講を経て学生にどのような変化があったかを調査することとした。

このことについて先行研究を調べたところ、介護福祉士養成校や言語聴覚士養成校等における学生の「社会福祉」に関する意識や授業効果についての研究はあったが、栄養士養成校については「情報教育」や「教育課程」についてのものは多くみられるものの、「社会福祉」に対する意識を調査したものはほとんどなく、確認できなかった。したがって本稿は、そのアンケート結果について報告することで、今後の本校における「社会福祉（社会生活と健康）」の教育内容のあり方を検討するための一助とすることを目的とする。

なお、本稿において「社会福祉」は広義の意味で捉え、「よりよい生活」という理念と「制度や活動」という実態の両方の意味をすべて含んだものを指す。

2. 調査

2-1 調査対象者及び時期

令和3年度に国際学院埼玉短期大学に入学し、令和4年度後期に「社会福祉概論」の授業を履修した59名を対象として、10月に実施された第1回目の授業開始直後と、全8回の授業終了時の12月にアンケート調査を実施した。履修者59名のうち、51名が校外実習に参加し栄養士の資格取得を目指しており、そのうち13名が授業前の8～9月に高齢者施設で実習を行っていた。

2-2 令和4年度後期「社会福祉概論」の授業内容

令和4年度後期「社会福祉概論」の授業内容は以下の通りである。

第1回	社会福祉を学ぶ意義：栄養士・管理栄養士が社会福祉を学ぶ意義と目的について考える。
第2回	社会福祉の意味と対象：社会福祉とその対象について学び、専門職の一つである栄養士・管理栄養士としてどのように関わるか考える。
第3回	社会保障と公的扶助：日常生活を支える社会保障の体系と社会保険の仕組み・制度、最低限度の生活の保障について学ぶ。
第4回	高齢者福祉と障害者福祉：高齢者の生活と介護、障害者福祉の概念・理念と法律・施策について学ぶ。
第5回	児童家庭福祉：子どもと子育て家庭の生活、障害児とその家族の生活について学ぶ。
第6回	地域福祉と権利擁護：地域福祉の理念と方法と地域福祉の主体、利用者本位の社会福祉のための仕組みについて学ぶ。
第7回	社会福祉における援助の方法：人間に関わる専門職として心得ておくべき社会福祉援助技術の基本的な考え方について学ぶ。
第8回	社会福祉実践の場と専門職：社会福祉の実施機関・施設の種別、社会福祉の専門職と連携について学ぶ。

表1 シラバス「社会福祉概論」

2-3 調査内容

アンケートには、Googleformを使用し各個人のスマートフォンから回答してもらった。大きく「1.『社会福祉』に対するイメージ・意識」「2.『社会福祉』に関連する知識や経験」「3. 栄養士が『社会福祉』を学ぶ意義の理解」の3点について調査を行った。

1の項目としては、「『社会福祉』と聞いて思い浮かぶ率直なイメージを教えてください」という質問に対し自由記述欄を設定した。2については、「『社会福祉』と聞いて思いつくキーワード（単語）を挙げてください」「『社会福祉概論』と聞いて何についてどんなことを学ぶ科目かイメージがありますか」の2つの質問項目にそれぞれ自由記述欄を設定した。3については、「栄養士と『社会福祉』はどの部分で関連があると思いますか」「社会福祉概論の授業で学ぶこと（社会福祉分野の知識）で、栄養士として働く時に役立つと思うことを挙げてください」の2つの質問項目それぞれに自由記述欄を設定した。

2-4 研究倫理

当初のアンケートは、無記名とし個人が特定されない形で実施した。学生へは、「学生の実態に応じた授業実施を目的とした実態把握のためのアンケートである」こと及び、「今後の授業のためのアンケートであり、個人は特定されず、本回答が成績に影響を及ぼすことはない」ことを説明し協力を求めた。授業最終回終了時のアンケートについては、「授業受講後の社会福祉分野に対する意識の変化の傾向を調査する目的がある」こと、「成績に影響が出ない」こと及び「アンケート結果を統計処理して個人が特定されない形で研究に用いたり発表したりする可能性がある」ことを伝えた上で協力を求めて実施した。

3. 結果

図1～図4に、前述質問項目1.2.3.それぞれの質問項目の回答を統計ソフト「AI テキストマイニング by ユーザーローカル」を用いて分析し、その傾向を概観した結果を示す。

3-1 「社会福祉」に対するイメージ・意識

受講前には、「苦手」「興味がない」と回答した学生が43.6%、「興味がある」「面白そう」と回答した学生が40%、「(イメージが)ない」と回答した学生が16.3%であった。受講後は、「苦手」と回答した学生が16.3%、「興味がある」「面白い」と回答した学生が83.6%となった。

3-2 「社会福祉」に関連する知識や経験

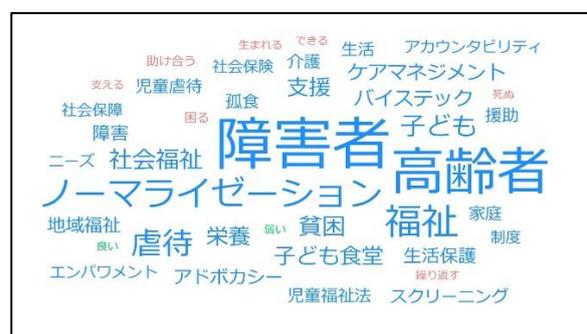
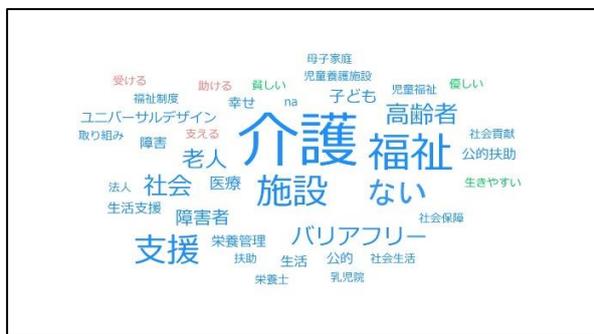


図1 社会福祉に関連する知識や経験〔受講前〕 図2 社会福祉に関連する知識や経験〔受講後〕

受講前の回答から抽出された語彙の合計数は、123 個であった。そのうち、最多が「介護」で23 個、「福祉」「施設」「支援」が15～11 個で続いている。また、「(社会福祉と聞いて思い浮かぶことが)ない」「わからない」等「ない」という言葉を含む回答も3 番目に多い14 個であった。これは、回答の1 割に相当する。(図1)しかし、受講後の回答では、抽出された語彙の合計数は、186 個であり、回答の量が6.5 割増え、「ない」の回答はなくなったといえる。「障害」「障害者」を含む回答が28 個、25 個と多い。その後「福祉」「ノーマライゼーション」「虐待」「子ども」が16～10 個で続いている。「高齢者」「老人」等については、受講前から多くみられた言葉であり、変化は少なかったといえるが、それ以外に「障害者」「子ども」「家庭」「人」等の回答が増加しており、授業受講を通して、想定される福祉の対象者について認識が広がったことが読み取れる。また、「被虐待」「貧困」「生活保護」「孤食」等、その対象がおかれている困難状況についての言葉を含む回答の増加が見られた。さらに、「社会保障」「児童福祉法」「社会保険」「制度」等の法や制度に関連する言葉を含む回答や、「ノーマライゼーション」「アドボカシー」等の福祉を捉える意識に関する言葉、「ケアマネジメント」「バイステック」「スクリーニング」等の支援方法や対人援助技術に関連する言葉、「子ども食堂」等の具体的支援場面を想定した言葉を含む回答の増加が確認できた。(図2)

3-3 栄養士が「社会福祉」を学ぶ意義の理解

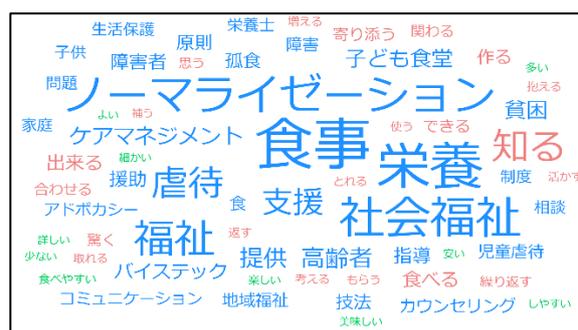
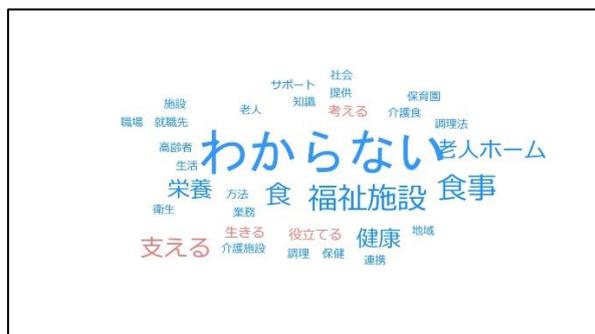


図3 栄養士が社会福祉を学ぶ意義の理解〔受講前〕 図4 栄養士が社会福祉を学ぶ意義の理解〔受講後〕

受講前には、「社会福祉で学ぶことがわからない」「意義はわからない」等、「わからない」を含む回答が23.6%、「あると思う」と回答してはいるものの具体的な記述はないものが7.2%、「施設で食事を提供する」「施設で栄養を管理する」等、「食事」「食」「栄養」等の言葉を含む回答が54.5%であった。回答量としては、学生1人につき、1センテンスでの回答がほとんどで、テキストマイニングで抽出された単語は61個であった。(図3)

受講後の回答では、複数の文章又は単語で回答する学生がほとんどで、抽出された語彙数は308個であった。回答量・バリエーションともに増大したといえる。うち、「食事」を含む回答が26個と最多で、「栄養」が24個と続いている。その他、「高齢者」「障害者」「子ども」「貧困者」「認知症」「妊産婦」「孤食」などのキーワードを含む回答が増え、社会福祉と聞いたときの「対象者の具体的なイメージ」の広がりや具体化が感じられた。また、受講前には「食」「食事」「栄養」等の言葉で回答されていた内容について、「栄養指導」「食事提供」「宅栄養ケア」「食管理」「食の面からサポート」等の具体的なイメージのある言葉への置き換えや、「生活支援」「立場に立った」「合わせた」「寄り添った」「対人援助技術」「面談技法」等を含む回答の増加へと変化があった。(図4)

4. 考察

4-1 「社会福祉」に対するイメージ・意識

2年次10月の時点でアンケートの回答から、それまでの生活では「社会福祉」を意識する機会が少なく、イメージや興味がなかったり苦手意識があったりしていたと捉えられる学生は、全体の約6割であったが、授業受講を経た12月には、そのうちの約4割の学生が「社会福祉」分野について興味をもつようになり、面白そうだと感じるように変容したことが確認できた。

4-2 「社会福祉」に関連する知識や経験

受講前には「社会福祉に関する知識」について、回答量(語彙数)、バリエーションともに限定的であった学生がほとんどであったが、受講後には、回答量、単語のバリエーションともにかなり増加が見られたことから、受講前に比べて受講後には、「社会福祉に関する知識」の幅が広がったと考えられる。

4-3 栄養士が「社会福祉」を学ぶ意義の理解

10月の時点では、約3割の学生が「意義が分からない」または、意義があると回答しながらも「具体的な記述はない」状況であったが、受講後には、回答に含まれる語彙数の増加と広がりが見られ、具体的なイメージが読み取れる回答への置き換わりが見られたり、支援内容に言及した記述が見られるようになったりした。

以上のことから、受講前には「施設等福祉施設」でも「食や栄養の面で関わる」から、「社会福祉」を「学ぶのだろう」、「学んだことが役には立ちそう」と漠然とした必要感を感じているにすぎなかった学生が、受講後には、具体的イメージを伴う「必要感」「学ぶ意義」を自覚するに至ったことがうかがい知れた。また、栄養学に関する専門性だけでなく、「(栄養学の専門性をもった上で)人と関わるための別の知識の必要性」に気づいたことも示唆された。

5. まとめと今後の展望

本稿では、本学で栄養士を目指す令和3年度入学学生に対して、「社会福祉」に対するイメージや意識についてアンケート調査を実施し、「社会福祉概論」の授業受講前後の意識やイメージの変化について結果をまとめた。単年度のアンケート調査によって、本校学生全般の傾向として言及することは困難であるが、ある一定の傾向をつかむことができ、今後の本校における「社会生活と健康」分野の教育がどうあるべきかを考えていく上での情報の一つにできると考えられる。

本稿では、授業の前後で学生の意識に変化があったことを報告した。今回の意識の変化が、「社会福祉概論」の授業の効果であるとまでは言い切れないが、2年生の後期の他科目での学びとの相乗効果もあいまって、学生の視野が広がり、総合的に成長したことがうかがい知れた。そして、本授業もそれらの視野の広がりや重要性に気づききっかけとなった可能性はあったのではないかと確認できた。今回の授業では、できるだけ栄養士に関わる事例を通して、福祉制度や福祉システムについて取り上げていくように工夫したり、課題として自らニュースの記事を探して考察する機会を設けたりした。アンケートの結果において、受講前には43%の社会福祉について苦手あるいは興味がないと回答した学生が受講後には16.3%に減少し、興味がある、面白いと回答した学生が83%に上ったことから、興味のある分野を切り口として学ぶことの効果も明らかになったと考えられる。このことから、授業を工夫していくことで、ますます興味をもって主体的に視野を広げられる可能性も示唆された。そして、授業で学んだことをどう現場で生かしていけばよいかイメージしながら学ぶことが、現場での実践力向上につながっていくと考えられる。

以上のことから、今後も本科目授業実施にあたっては、実践と結び付けながら学べるよう考慮して進めると同時に、日常的に社会情勢や社会福祉の動向に関心に向けさせる働きかけや、演習的内容を取り入れることで、生きた知識となる学びを提供できると考える。今回の授業受講後アンケートでは、「バイスティック」「面談技法」等の言葉を含む回答も多くみられた。このことは、演習的な授業を取り入れたことで学生の印象に残ったことの示唆であると考えられる。反面、社会福祉分野は幅広く、全8回で知識と技能を十分に修得させるためには演習的な取り組みを取り入れることには困難さも実感した。しかし、2000年の栄養士法改正により科目指定性が廃止された背景を鑑みれば、目標に沿って柔軟に内容を設定することが求められているともいえる。栄養士の専門性を広く発揮していくための基礎力を育むために、「養成校ごとに特色あるカリキュラ

ムの編成」をどう考え、社会福祉概論の教育内容をどうしていくか、何を削減しどのような学び方に時間を割くか、今後も検討し続けていくことが重要であると考え。

著者の利益相反：開示すべき利益相反はない

文献

- 厚生労働省 (1998) 「21 世紀の管理栄養士等あり方検討会報告書」厚生労働省 HP (報道発表資料)
- 川越有見子 (2015) 「栄養教諭養成におけるカリキュラム開発研究」風間書房
- 文部科学省 「3 栄養士、管理栄養士制度の概要」文部科学省 HP 平成 12 年 4 月栄養士法改正後の栄養士及び管理栄養士養成カリキュラム (平成 14 年 4 月施行)
- 厚生労働省健康局長通知 「栄養士法施行規則の一部と改正する政令等の施行について」 (平成 13 年 9 月 21 日)
- 久木野睦子 (2017) 「学生の意識調査からみた本学の栄養教諭養成における課題」活水論文集第 60 集
- 山王丸靖子 (2018) 「栄養教諭を目指す学生の意識調査」城西大学教職課程センター紀要第 2 号
- 金井猛徳 (2016) 「栄養士養成課程に入学する短期大学生の情報教育に関する調査」大阪経大論集第 67 巻第 4 号
- 神部順子 (2003) 「介護福祉士養成教育のための関連科目のありかた」日本家政学会資誌 Vol.54No.6
- 坊岡峰子 (2019) 「言語聴覚士養成校における学生の社会福祉に関する意識と授業効果—授業前・後のアンケート調査より—」人間と科学県立広島大学保健福祉学部誌 19 (1)